

認定 NPO 法人アサザ基金

第 14 期（2012 年度）事業報告書

2012 年 4 月 1 日～2013 年 3 月 31 日

第 14 期（2012 年度）事業報告

—目 次—

霞ヶ浦の再生事業	3-5
環境教育事業	5-7
水源地保全事業	7-13
地域循環型社会構築に関わる事業	13-15
複数の事業にかかわる助成	15-16
その他の事業	16-17
アサザプロジェクトに関する講演、発表、視察、展示等	18-19
アサザプロジェクトに関する公表成果、報道等	20-21
第 14 期事業報告書	

アサザプロジェクトへの参加人数

2012/4~2013/3

環境教育事業	11,819
水源地保全事業	1,996
その他	1,724
計	15,539名

1995 年発足から、アサザプロジェクトへの参加者数は延べ 245,349 名となりました。

アサザプロジェクト第14期事業報告

2012年度は新事務所での仕事開始となりました。霞ヶ浦流域に降り注いだ放射能汚染問題に関して、国や県等に要望書を提出。県内の関係研究機関や大学等に調査協力を呼びかけるとともに、弊基金独自で56流入河川の採泥やサンプルを乾燥させ、常総生協の協力をいただいで計測をすすめる市民モニタリングの流れを作りました。また、「いのちの水霞ヶ浦を守る市民ネットワーク」の事務局としてモニタリング報告会の開催や署名活動を行いました。

2012年4月のNPO法改正に伴い、認定NPO法人資格取得にむけて年度始めより準備を進めました。厳しい審査のもと、12月27日に法改正後茨城県では第1号となる認定NPO法人に認定されました。悲願の認定取得で大きな前進をとげることができました。これは、皆様のご支援の賜物です。ありがとうございました。

ブログ等で弊基金が誹謗中傷された問題では、4月に弁護士と相談しながら申入書を提出した結果、事態は収束にむかいましたが今後同様の問題が発生することが懸念されます。ネット社会における新たな課題として、注視してまいります。

環境学習事業では、被災地の宮城県南三陸町で新たに前出授業を開始しました。霞ヶ浦流域における企業との協働による水源地保全事業では酒米づくりの他、新たに「しょうゆで自然とつながろうプロジェクト」や「レンコン作りで生物多様性」をめざす取り組みが始まりました。

自然保護の産直米「オオヒシクイ米の販売事業」が9月からスタートしました。

千葉商科大学教授吉田寛氏(弊基金監事)が提唱する生物多様性を評価する指数(kikyo)を再生した現場ごとに明記しました。これまでの活動の成果がわかりやすくなりました。

水辺 kikyo : 観察された鳥類、トンボ、魚類の種数より環境を評価した指数。

トンボ kikyo : 観察されたトンボの成長段階(成虫・未成熟・幼虫・産卵)と、生息条件や産卵方法によって環境を評価した指数。

2012年4月から2013年3月までにのべ15,539名がアサザプロジェクトの活動に参加しました。

● 湖の再生事業

アサザ基金が様々な主体と協働で行ってきた湖の再生事業は、学校ビオトープを利用した環境教育、アサザの系統保存と水生植物保護、市民参加による水性植物の植付け、常陸川水門(逆水門)の柔軟運用等の政策提言、放射能汚染に関するモニタリング等、いずれも湖の再生に係るアサザプロジェクトのネットワークを活かした事業です。流域の他の事業との成果がここに反映され、相乗的な効果を生むことで広大な霞ヶ浦の再生が期待されます。

○ 植生帯復元地区への植付け

霞ヶ浦・北浦に造成された11ヶ所の浅瀬等を利用し、湖岸植生帯の再生を目指して、アサザ、ヨシ、マコモ等の植付けを行いました。ビオトープから苗の株分けや、アサザやヨシ、マコモなど植生帯復元地区へ植付ける苗の準備や植付けの指導を行い、この活動を4地区(石田・木原・浜・大船津)で8回実施し、小学校の子どもたちや地域の方々、企業の方々のがのべ215名が参加しました。植え付けたアサザをはじめとする水草の株数は314株となりました。

豊郷小学校(9/26 大船津 24株 15名 大船津株)

利根コカ・コーラ公募市民(8/21 木原 55株 34名 根田株・堂崎鼻株)

納場保育園(9/11 根田 38株 38名 根田株)

日立電線株式会社(8/22 石田 67株 21名 根田株・麻生株)

日立化成工業株式会社(7/21 木原 55株 50名 堂崎鼻株)

新宿カップ村(7/17 木原 15株 11名 堂崎鼻株)

損保ジャパンCSOラーニング生(7/29 木原 25株 19名 堂崎鼻株)

◎ 植え付け実施のためのバス移動については、三井物産環境基金、公益信託大成建設自然歴史環境基金、セブン-イレブンみどりの基金より助成をいただき実施しました。

- ・ アサザの植付け会を里親や一般市民に呼びかけ、植生帯復元事業と連携して実施しました。
(アサザ基金主催)

実施日	行事名	場 所	参加者	アサザ株由来	植付け株数
8/4	植付け会	行方市 浜	27名	堂崎鼻株	35株

- ・ アサザのお花見会を里親や一般市民に呼びかけ、実施しました。(アサザ基金主催)

実施日	行事名	参加者	備 考
9/15	アサザのお花見会	20名	木原・麻生アサザ群落 他、活動現場見学

○ アサザの系統保存と里親

アサザは依然として危機的状況にあります。国交省霞ヶ浦河川事務所(潮来市)、(独)水資源機構霞ヶ浦開発総合管理所(稲敷市)および霞ヶ浦ふれあいランド、流域の学校ビオトープでアサザの系統保存を継続しています。また、主旨に賛同した学校や団体、企業や市民の方にも里親として協力していただきました。

○ 植栽地及び水源地の生物調査

霞ヶ浦の復元地区や水源地の谷津田再生現場では、定期的に生物調査を実施しました。また、アサザの群落調査も行いました。

○ 霞ヶ浦・北浦の放射能汚染対策事業

福島第一原発の事故により、環境中に放出された放射性物質が地表から、56本の流入河川へ入り、時間の経過とともに霞ヶ浦・北浦へ流入し、高濃度汚染が進んでしまうことが懸念されます。事故後2年経過した現在も多くの放射性物質は、地表にあり、次第に河川から湖へと移っていくことが想定されます。しかし、行政の対応は不十分です。そこで、私たちは市民団体や生協、行政等に協力を呼びかけ、除染等の対策を進めるための政策提言や流入河川における底泥採取や放射能測定、モニタリング報告会、署名活動等を実施しました。

底泥採取・放射能計測の実施 流入河川56本および4河川詳細調査

- 第1回 市民モニタリング 2012年3～7月実施
- 第2回 市民モニタリング 同年9～11月実施
- 第3回 市民モニタリング 2013年3～4月実施

霞ヶ浦を放射能汚染から守るための報告会			参加者
第1回	2012年4月1日	霞ヶ浦環境科学センター	91名
第2回	6月3日	霞ヶ浦環境科学センター	87名
第3回	7月22日	土浦市民会館小ホール	107名
第4回	12月8日	亀城プラザ	97名

署名活動は2012年6月から開始。関係団体や住民に協力要請し、インターネット上で全国にも呼びかけました。街頭での署名活動は7月(2回)、8月、10月、12月、2013年3月と計6回、土浦市やつくば市、東海村などで実施し、その集計結果は3月31日現在16,526筆となっています。

○ 霞ヶ浦の再生に向けた政策提言

福島第一原発事故後の放射能汚染問題への対応を求めて、茨城県や土浦市、霞ヶ浦河川事務所、流域の研究機関等に除染やモニタリングへの協力、連携体制の構築等と呼びかけました。

「土浦市内の霞ヶ浦流入河川の放射能汚染対策の実施についての要望」を土浦市長に「霞ヶ浦・北浦の放射能対策に関する要望」を県知事宛に「霞ヶ浦の放射能汚染対策に関する協働のお願い」茨城大学宛に「石積み消波施設造成中止を求める申し入れ」を河川事務所宛に、「霞ヶ浦を放射能から守るために早急の取組を求める要望書」を環境大臣あてに「放射性物質の蓄積を促進する水位上昇管理中止を求める要望書」を霞ヶ浦河川事務所に提出しました。

○ 水郷トンボ公園の維持管理

1998年の開園以来、潮来ジャランボプロジェクト実行委員会が単独でトンボ公園内の生物の生息環境に配慮した維持管理を行ってきました。メンバーの高齢化などの対応策として、今年度からアサザ基金が中心となり、潮来ジャランボプロジェクト実行委員会と連携してトンボ公園を管理しました。アサザ基金が主体となった運営が初めてということもあり、様々な課題も見えてきましたが、アサザやミズアオイが一面に咲くという目標に一丸となって、開園作業や、江間・池の整備作業を実施し、参加者は134名でした。

業務委託費 400,000 円で下記の業務を実施しました。

1. 日常管理 開園作業 (4/27)、冬越し作業 (11/17)
耕起、植え付け、池除草、江間整備 (7/17, 8/17, 10/9)
田んぼ (田植え 4/27, 稲刈り・脱穀 9/9, 乾燥・粃すり 9/22)
2. 不定期管理
3. イベント開催 利根コカ・コーラボトリング労働組合による維持管理作業

○ 駅ビオトープの維持管理

JR常磐線石岡駅、高浜駅 2ヶ所の駅ビオトープのうち、石岡駅ビオトープは平成 35 年まで設置期間延長済です。高浜駅ビオトープは東日本大震災の影響で存続未定となりました。

● 環境教育事業

新しい社会を築いていくためには、新鮮な感性と豊かな創造力、行動力を持つ人材の育成が不可欠です。アサザプロジェクトの環境学習は、単なる環境知識の普及に留まらず、子ども達の視野を広げ新たな発想へと導く学習を目指しています。環境学習を支援する講師派遣事業「出前授業」は、小中学校の総合学習の時間等を活用して実施しました。

牛久市内では、市から委託を受け市内の全小中学校を対象に年間を通して学習プログラムを提供しました。霞ヶ浦流域内外の学校では、生き物の目になって環境を見直す学習や、子どもたちの住んでいる地域のお宝を発見して、まちづくりや地域ブランドづくりにいかすなど多種多様な学習プログラムを提供しました。NEC キャピタルソリューションの「わくわくこどもの池プロジェクト」や「シャープと気象キャスターネットワークとの協働授業」も継続しました。

2012年度は全体で 11,819 名の児童生徒が参加しました。

○ 霞ヶ浦流域内での環境学習

牛久市内の小中学校を除いた霞ヶ浦流域内の小中学校では、総合学習の時間を活用した環境教育に 855 名の児童が参加しました。また、流域内の学校ビオトープを訪問し、メンテナンスや管理のアドバイスを 9 校で実施し、1 校で BT の再造成をしました。活動資金は三井物産環境基金、セブンイレブンみどりの基金、大成建設自然・歴史環境基金、グリーン基金、霞ヶ浦ゆめ基金から充てました。

○ 学校ビオトープから始まるまちづくり事業

(牛久市教育委員会等との協働事業 2004 年度から 8 年目)

牛久市内全 13 校の総合学習の時間において、「牛久市の自然特性の理解」「学区ごとの自然環境データの収集」を通して、「生物(他者)の視点になっての地域資源探し」を行いました。自分のまちのどこが生物と共存していく上で障害となっているのか、地域の資源を生かしてどう改善していけるのかを学習し、最終的には「自然と共存するあたらしい牛久のまち」を具体的に提案し、施策への反映を目指しました。

現在は、総合学習のあり方や社会参加の意欲を育てる学習のあり方が問われていますが、本事業は総合学習の先進モデルとして注目されています。2012 年度も子ども達の創造力・総合力を伸ばし、教科学習と連動するプログラムづくりに務めました。

1. 業務内容

- (1) まちづくり学習プログラムの作成と実施
- (2) 学校支援を目的とした実行委員会の定期的開催
- (3) 地域への学習成果発表の実施

2. 事業報告

- (1) 各学校の総合的な学習の時間において学習プログラムを実施しました。

延べ70回、参加総人数は5,856人でした。

- ・牛久小学校…学校ビオトープの再造成と学校の裏山『へび山』の野外観察・提案づくり
- ・牛久第二小学校…実施なし
- ・向台小学校…近くの谷津田の野外観察
- ・中根小学校…小野川・その周辺の田んぼ、学校裏の屋敷林にて野外観察
- ・神谷小学校…再生させた谷津田にて無農薬の米づくり（田植え、稲刈り、脱穀体験）、谷津田や上流・まちの野外観察・学区内の雨水対策についての提案づくり・作業
- ・岡田小学校…小野川の野外観察、お年寄りからの聞き取り、アサザ基金の仕事について
- ・奥野小学校…学校のビオトープ観察、周辺の谷津田、再生した谷津田観察
- ・ひたち野うしく小学校…学区の野外観察とお年寄りからの聞き取り
- ・牛久第二中学校…ビオトープ再造成に向けての実験・観察、企業のCSR活動（キヤノンマーケティングジャパン）を学ぶ授業
- ・牛久第三中学校…＜科学部＞牛久沼再生についての科学部の活動補佐、
- ・牛久南中学校…プールビオトープの観察、近くの谷津田（かっぱん田）野外観察と谷津田再生の提案づくり、中学生による自主サークルアサザクラブの活動
- ・下根中学校…牛久バイオマスタウン構想の推進役としての学習・提案・作業

- (2) 実行委員会を2回実施し、情報共有、意見交換を図りました。

2012年5月18日 第1回実行委員会（今年度計画について）

2012年11月6日 第2回実行委員会（中間報告と課題解決について）

- (3) 地域へ学習成果を発表し、住民へのアピールを行いました。

2013年2月2日恒例の「カッパ大交流会」（ビオトープからはじまるまちづくり事業報告会）が開催され、市内4校（牛久小、中根小、牛久南中、牛久三中）の代表児童生徒と、秋田県大仙市太田南小学校から児童4名が初参加、三重県大紀町立七保小学校が昨年に引き続きビデオレターにて参加し、環境学習の成果を発表しました。意見交換の時間も設けられ、異なる地域で学習してきた子ども達同士や地域の方と交流ができました。

牛久市教育委員会から事業委託費として935,550円をいただき活動費に当てました。

○ 県外における環境学習

- ・秋田県八郎湖流域においては、秋田県秋田地域振興局と協働で2004年から継続して取り組んできた環境学習を今年度も継続して行いました。6校9回述べ310名でした。仙北地域においては、仙北地域振興局と協働で、3校7回述べ278名行いました。（2009年から継続）
- ・沖縄県では宜野湾市や宮古島の小学校で、自然を生かしたづくりをテーマに、526名が参加しました。
- ・三重県大紀町では、七保小の子ども達を中心に地域活性化と環境保全の一体化を目指す「お茶のブランド化」をテーマに授業を行い122名が参加しました。お茶畑の作業では地域の方やキヤノンマーケティングジャパンからもご支援をいただきました。
- ・北九州市立清水小学校では紫川の保全をテーマに3年生と6年生を対象に授業を行い205名が参加しました。曾根東小学校へはNECC支援の「わくわく子どもの池PJ」で訪問しました。
- ・滋賀県長浜市立湯田小学校では地元NPOの招きで環境学習を進めました。3、4年生178名が参加しました。
- ・被災地である宮城県南三陸町の伊里前小学校で復興をテーマに環境学習に臨みました。4年生40名が参加しました。

○ 「わくわく子どもの池プロジェクト」

（NECCキャピタルソリューション 2007年度から継続）

東京や北九州など都市の中にみられる生きものが移動するために通る「生きものの道」を広げるために、都会の子どもたちと生きものの目線になって都市空間を見直し、生きものの供給拠点となる学校ビオトープをつくります。ビオトープが完成してしばらくすると学校のまわりから生きものがやってきます。このような成果を活かして、まちのなかに生きものと共生できる環境を広げていくためのまちづくりの提案を子どもたちと行っていく取り組みです。この取り組みは、NECキャピタルソリューション(株)との協働です。墨田区や港区、足立区、北九州市などの小学校で環境教育プログラムを提供、実践し、NECキャピタルソリューション(株)社員の社会貢献・社員ボランティア育成の一環として実施しました。ビオトープの造成にとどまらず、ビオトープ造成から始まるまちづくりを提案する学校が出てくるなど、事業の規模と内容がともに拡大されてきました。のべ40回の授業を実施し、3,160名の子供たちが参加しました。昨年度ビオトープを造成した小学校で、やってきた生きものを観察する授業も行いました。

東京都内を中心に飛び石状に事業が展開されていくことで、東京都内をつなぐ生きもののネットワークを構築することができます。生きもののネットワーク化事業の都市版といえます。ヒートアイランドなど都心に特有な様々な条件を含みながら、一つの取り組みで多くの事項に効果を波及していくことができる、アサザプロジェクトの特徴をよく表した事業です。

「わくわくこどもの池PJ協働事業費」として1,451,980円の支援をいただきました。

環境教育プログラムを提供した小学校

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1 北九州市立曾根東小学校 5年生 | 7 港区立芝小学校 5年生 |
| 2 墨田区立東吾孺小学校 4年生 | 8 港区立桂坂保育室年長・年少 |
| 3 墨田区立菊川小学校 4年生 | 9 港区立本村小学校 3年生 |
| 4 墨田区立横川小学校 3・4年生 | 10 足立区立舎人小学校 3年生 |
| 5 墨田区立立花吾孺の森小学校 4年生 | 11 足立区立弥生小学校 4年生 |
| 6 墨田区立両国小学校 3年生 | 12 足立区立西新井第一小学校 4年生 |

○ シャープ株式会社と気象キャスターネットワークとの協働による小学校環境教育 (シャープ株式会社受託 2007年度下期から継続)

シャープ株式会社とNPO法人気象キャスターネットワーク、アサザ基金の3者協働による全国の小学校を対象とした環境学習出前授業を下記6校(被災地1校を含む)で実施しました。シャープ(株)は「リサイクルや新エネルギー(太陽光発電)」をテーマに、気象キャスターネットワークは「地球温暖化問題」をアサザ基金は「生態系保護」の立場からそれぞれ1時間ずつ授業を行いました。合計で261名の子供たちが参加しました。シャープ(株)からは旅費と講師料として、360,698円をご支援いただきました。

実施校

都道府県	学校名	都道府県	学校名
宮城県	東松島市立大塩小学校	東京都	港区立南山小学校
佐賀県	佐賀市立松梅小学校	広島県	府中町立府中北小学校
青森県	弘前市立桔梗野小学校	宮崎県	都城市立丸野小学校

● 水源地保全事業

○ NEC田んぼづくりプロジェクト with アサザ基金

(NEC CSR・環境推進部委託)

NEC田んぼづくりプロジェクトは2004年に石岡市東田中で谷津田再生事業を開始しました。毎年大勢の社員ボランティアが参加して実績を積み、企業とNPO、地域の連携による環境保全活動として高い評価を得てきました。その成果をふまえ、さらに大きな規模の再生事業を2010年に牛久市上太田で実施しています。

① 石岡市東田中の活動報告

1. 業務内容

- (1) NEC 社員及びその家族を対象にした自然体験型環境意識啓発プログラム計画立案
- (2) プログラムの事前準備及び当日運営
- (3) 谷津田の維持、管理
- (4) 谷津田の再生を評価する為の調査
- (5) その他関連・付帯する業務

2. 事業報告

2012 年度は以下の日程で事業を進行しました。

全社行事のイベント 5 回、達人コース全 12 回行ないました。

全社行事

田植え (5/26 95 名参加) 草取り (7/8 53 名参加)
 稲刈り (10/13 80 名参加)
 新酒仕込み (東田中、上太田合同イベント 1/19 80 名参加)
 新酒蔵出し (東田中、上太田合同イベント 3/9 110 名参加)
 達人コース 86 名参加 計 504 名

② 牛久市上太田地区の活動報告

上太田地区の谷津田はほぼ全域が耕作放棄地のため、水源地としての維持や利水/治水効果、さらには生態系の多様性が失われようとしています。この谷津田では再生前の現況調査から社員ボランティアに参加いただき、データを取りながら、谷津田を丸 1 つ再生することで実物大の社会モデルとして「トキ舞う谷津田」の実現を目指します。

1. 業務内容

- (1) NEC 社員及びその家族を対象にした自然体験型環境意識啓発プログラム計画立案
- (2) プログラムの事前準備及び当日運営
- (3) 谷津田の維持、管理
- (4) 谷津田の再生を評価する為の調査
- (5) その他関連・付帯する業務として、(株)クボタ e プロジェクトのご支援を頂きました。

2. 事業報告

2012 年度は以下の日程で事業を進行しました。

全社行事のイベント 5 回、達人コース全 11 回行いました。

全社行事

田植え (6/10 実施 53 名参加) 草取り (7/22 実施 50 名参加)
 稲刈り (10/27 実施 48 名参加) 脱穀 (11/10 実施 61 名参加)
 復田 (2/23 実施 30 名参加)
 達人コース 118 名参加 計 330 名

業務委託費 6,532,610 円を①と②の活動に充てました。

また、農機メーカーの(株)クボタとの協働で復田作業を行いました。e-Project 1/17, 18 実施

kikyo 値 田んぼ/ : 牛久市上太田 2,000 m²

耕作放棄地/牛久市上太田 21,000 m²

	2010 年	2011 年	2012 年		2010 年	2011 年	2012 年
水辺 kikyo	192	156	216	水辺 kikyo	0	0	0
トンボ kikyo	7	21	34	トンボ kikyo	11	14	14

○ 三井物産谷津田再生プロジェクト

(三井物産(株)三井物産環境基金委託 2007 年から継続 6 年目)

アサザ基金で行っている霞ヶ浦流域での自然再生事業と三井物産環境基金のボランティア活動が連動し、三井物産役職員とその家族を対象に、環境意識の向上と基金活動への参加意識醸成を目

的に、米作りなど谷津田再生を通じた年間の自然体験プログラム「谷津田再生プロジェクト」を実施しました。

本事業地は牛久沼の水源で、アサザプロジェクトの牛久沼再生活動の基盤にもなっています。三井物産株式会社からは同時にプロジェクト助成もいただいております、その取り組みと連動していくような展開を少しずつ図っていきます。耕作放棄された水田を再生してから6年が経過し、無農薬のコメ作りもだいぶ作業がはかどるようになってきました。そこで活動フィールドを田んぼだけではなく、周辺の林の整備へと広がっています。

1. 業務内容

- (1) 三井物産役員及びその家族を対象にした米作りを中心とした自然体験プログラムの計画立案
- (2) プログラムを実施する谷津田の借り上げ手配
- (3) 谷津田における維持管理、基盤整備、米作りの業務
- (4) 個別プログラムの実施
- (5) 谷津田の再生を評価するための調査

2. 事業報告

2012年度は以下の6回のプログラムを実施しました。

田植え	54	名
草取り①	34	名
草取り②	66	名
稲刈り	80	名
酒仕込み・谷津田整備	46	名
蔵出し・谷津田整備	36	名
参加者合計	316	名

業務委託費として、5,811,750円を醸造委託製造や水田管理、プログラム運営費用に充てました。

kikyo 値 田んぼ・森林／牛久市遠山 6,000 m²

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
水辺 kikyo	570	680	15	16	1,512	1,722
トンボ kikyo	106	131	130	130	144	150

○ UBS RICE Project UBS証券会社との協働事業

(UBS証券会社委託 2008年度から継続)

霞ヶ浦・北浦の水源地(谷津田)の荒廃はいまや、大きな社会問題になっています。

霞ヶ浦・北浦の水質保全のためにも、霞ヶ浦・北浦流域の健全な生態系の維持のためにも、水源地の再生が急務の課題となっているなか、霞ヶ浦・北浦の水源地・谷津田をフィールドとして、無農薬での米作りを行い、環境と地域に貢献する RICE (Rural Investment in the Community and Environment) Project を実施しました。このプロジェクトは、水源地再生、生物多様性保全のみならず、地域や地場産業の活性化、環境教育の場の提供、地域人材の育成など、多方面への波及効果が期待できる価値創造型の取り組みになっています。

業務委託費 6,510,000円 で下記の事業を実施しました。

1. 業務内容

- (1) 棚田・谷津田の維持管理、生物調査
- (2) 子どもたちへの環境教育
- (3) 棚田・谷津田での米作り(田起し、代掻き、田植え、草取り、稲刈り、脱穀、餅づくり、日本酒醸造)
- (4) 個別プログラムの実施
- (5) その他上記各事項に関連する業務

2. 事業報告

2012年度は鹿嶋市山之上において3回、潮来市清水において4回の個別プログラムを実施しました。(参加者数)

鹿嶋市山之上 (もち米作り)	田植え (5/13)	42名
	稲刈り (9/23)	57名
	もちつき (1/27)	57名
	参加者合計	156名
潮来市清水 (酒米作り)	田植え (6/2)	69名
	草取り (7/21)	71名
	稲刈り (10/20)	64名
	蔵出し (1/27)	57名
	参加者合計	261名

*山之上もちつきと清水蔵出しは同日開催

酒米の栽培を行っていた潮来市清水の水田が、東関東自動車道の建設予定地に該当し取り壊される事になった為、酒米栽培地を鹿嶋市山之上に移転する事が決定しました。移転先の水田はもち米を栽培している谷津田と連続しています。再生地を連続して拡大させる事で、広大な山之上谷津田全体の保全に向けた足がかりが出来ました。

kikyo 値 田んぼ・ため池/鹿嶋市 1,500 m²

	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
水辺 kikyo	0	756	836	1,672	1,892	1,936	1,628
トンボ kikyo	5	40	63	63	63	63	63

kikyo 値 田んぼ/潮来市 6,0000 m²

	2009年	2010年	2011年	2012年
水辺 kikyo	320	810	1,054	2,108
トンボ kikyo	30	36	38	38

○ ホギメディカル谷津田再生プロジェクト ホギメディカル・牛久市との協働事業 (株)ホギメディカル委託 2009年度から継続)

霞ヶ浦流域に広く分布する水源地「谷津田」の荒廃が大きな問題となっているなか、牛久市のホギメディカル筑波工場に隣接する荒れてしまった谷津田全体を新たな価値を作り出しながら再生し、昔ながらの田んぼづくり、谷津田の管理を行っていく谷津田再生プロジェクトを実施しました。水源地「谷津田」のシンボルの一つとなっているホタルを課題解決の指標として、健全な水循環の復活、地域文化の振興、牛久の原風景の保全、自然生態系の再生・保全に取り組んでいます。業務委託費 7,720,000 円で下記の事業を実施しました。

1. 業務内容

- (1) ホギメディカルの役職員及びその家族を対象にした米作りを中心とした自然体験プログラムの計画立案
- (2) 谷津田における維持管理、基盤整備、生物調査、米作りの業務
- (3) 個別プログラムの実施
- (4) その他上記各事項に関連する業務

2. 事業報告

2012年度は5回の個別プログラムを実施しました。(純参加者数)

全社行事	田植え・自然観察 (5/19)	90名
	草取り・自然観察 (7/28)	50名
	稲刈り・自然観察 (10/20)	70名
	地酒仕込み (2/9)	41名
	新酒蔵出し (3/23)	32名
	参加者合計	283名

kikyo 値 田んぼ・ため池／牛久市奥原 7,000 m²

	2009年	2010年	2011年	2012年
水辺 kikyo	784	1,344	858	814
トンボ kikyo	14	20	22	33

○ 「UBSの森 霞ヶ浦水源の森づくり」UBS証券会社・牛久市との協働事業
(UBS証券会社の寄付による牛久市委託 2009年度から継続)

里山の再生は、霞ヶ浦流域の水源地の保全・再生を図る上で、重要な役割をもっています。水源地である谷津田の周りには林があり、林はその水源を涵養する機能を持っています。このような本来の里山づくりを行うことを目的に、牛久市において霞ヶ浦水源の森づくりを行いました。この取り組みは、水源地の保全・再生、里山の原風景の再生、生物多様性保全、地域の活性化、環境教育の場の提供、地球温暖化防止など都市と農村をつなぐ新しい循環型のモデル事業となっています。

この事業はUBS証券会社が牛久市に寄付(ふるさと納税制度を利用)し、牛久市がアサザ基金に委託するかたちで実施されました。

業務委託費 330,000 円で下記の業務を実施しました。

1. 業務内容

- (1) 植生・生物調査
- (2) 植栽維持管理

2. 事業報告

植生・生物調査 各1回

草刈り 2009年 植樹地(全面1回、樹木回り2回)、施肥3回

草刈り 2010年植樹地(全面3回)、施肥3回

○ UBS Forest Honey プロジェクト

(UBS証券株式会社の寄付による事業 2010年度から継続)

UBS証券株式会社の寄付により里山の再生を行っている「UBSの森」において、ニホンミツバチが広がっていく環境づくりを進めています。2012年4月に導入したニホンミツバチは、毎月異なる味や香りの蜜を作り出したものの、夏に蛾の幼虫スムシに被害され逃居、6月に導入したセイヨウミツバチも秋にキイロスズメバチによって全滅してしまいました。そこで、新しくミツバチの導入を図るため、森づくり・林床植生の再生に取り組みました。

UBSの森を拠点とする周辺地域を視野に入れた生物多様性保全や森と人々との交流、農村と都市との交流を創出するために、社員家族によるミツバチの巣箱管理、里山整備を行いました。また、2月には採集したハチミツからお菓子を製作、UBSのバレンタイン企画として社内販売される「里山スイーツ」が実現、売り上げはアサザ基金に寄付として還元されました。

今年度の活動費用として1,700,000円を寄付金から充てました。

1. 業務内容

- (1) 採蜜・里山整備イベントの実施
- (2) 植生調査／生物調査

2. 事業報告

UBS証券株式会社社員及び家族による採蜜・野草の植え付けや里山の整備を行うイベントを実施しました。

- ・野草の苗作り・巣箱の手入れイベント(4月7日実施) 参加者16名
- ・土壌改良・生物観察イベント(9月8日実施) 参加者34名

○ 損保ジャパン環境財団CSOラーニング生による水源地保全を目的とした

循環型社会構築(通称:かっぱんだ)プロジェクト (2010年度から2年目)

損保ジャパン環境財団「CSOラーニング制度」ラーニング生を対象とした人材育成と、牛久沼水源地の保全や生物多様性保全を目的に、牛久沼の水源地である谷津田の再生やつながりを生み出す商品づくりに取り組んでいます。

今年度は、2011 年度に復田した谷津田（牛久市遠山）にて初めてマンゲツモチを作付けし、収穫した米を使って小美玉市の大形屋商店にて霞ヶ浦のザザエビを入れたせんべいを作りました。せんべいのブランディングは牛久南中学校の学習と連携し、様々なつながりを表現するネーミングとラベルデザインを作成し地域の商店で販売しました。
活動費用としては損保ジャパン環境財団から協賛金 810,130 円ともち米の売り上げ金 45,000 円を合わせた 855,130 円を充てました。

1. 業務内容

- (1) ラーニング生による企画作成、マーケティングの支援・調整
- (2) ラーニング生と協力して行う農作業イベントの準備・調整・運営支援
- (3) 生物調査・植生調査

2. 事業報告

(1) ラーニング生と協力して行う農作業イベントの実施

・2012年5月12日	田起こし	参加者	23名
・2012年5月26日	田植え	参加者	130名（含南中1年生109名）
・2012年7月7日	草取り①	参加者	5名
・2012年7月28日	草取り合宿	参加者	19名
・2012年9月22日	稲刈り	参加者	20名
・2012年10月31日	脱穀	参加者	6名
・2013年3月3日	収穫祭	参加者	52名（含南中生35名）
		合計	255名

kikyo 値 田んぼ／牛久市遠山

	2010年	2011年	2012年
水辺 kikyo	0	552	324
トンボ kikyo	1	20	31

○ レンコンづくりによる谷津田再生事業（仮称）

（NEC フィールディング株式会社委託 2012 年事業開始 1 年目）

2012 年 8 月より NEC フィールディング株式会社と NPO 法人アサザ基金の協働による霞ヶ浦の水源であり、里山の生きものの重要なすみかである谷津田の新たな保全再生事業が始まりました。このプロジェクトは霞ヶ浦を代表する作物であるレンコンづくりを通じて谷津田の保全を行う初めてのプロジェクトで、霞ヶ浦にも近い土浦の谷津田で行います。霞ヶ浦の水源は大きな流入河川ではなく、湖の周りに数多く点在する谷津田です。その谷津田の多くは近年耕作放棄されることが多く、社会問題にもなっています。しかしきれいな水を供給する機能を持つ谷津田の一部でレンコン栽培が広く行われるようになり、湖の水質を悪化させる富栄養化物質がレンコンづくりのための水田（ハス田）から流出していると近年指摘されています。霞ヶ浦のレンコンは全国的に知られる作物である一方、霞ヶ浦や水源地谷津田の環境保全という点でブランド化されたレンコンはまだありません。

そこで、本プロジェクトは定期的な社員ボランティアの参加による無化学肥料（可能な限りの低肥料）無農薬栽培によるレンコンづくりを行うことで、まだ誰も取り組んでいない環境保全レンコンブランドづくりに取り組みます。

今年度は主に耕作放棄されたハス田の再生作業にとりくみました。

事業報告

2012 年度は以下の 5 回の活動を実施しました。

・2012年9月22日	現地調査	6名
・2012年11月24日	草刈り	6名
・2013年1月26日	抜根 一回目	5名
・2013年2月23日	抜根 二回目	11名
・2013年3月9日	抜根 三回目	6名
	参加者合計	34名

協働事業の実施費として、288,720 円をいただき運営しました。

kikyo 値 ハス田／土浦市 1,300 m²

水辺 kikyo	2012 年	105
----------	--------	-----

○ 霞ヶ浦・北浦の水源地となる里山の保全事業

市民ボランティア「一日きこり」の実施（1997 年度から継続）

霞ヶ浦・北浦に良質な水を供給するために、荒廃した谷津田や周辺森林の保全に努めています。下草刈りや間伐などの森林管理作業にボランティアを募り、2011 年度は 4 回行いました。牛久市および潮来市で、アズマネザサなどの下草刈りを始め、除伐、森あそび、動植物観察などと多岐にわたる内容で実施しました。流域に広く分散分布する森林を広域的に管理するためのネットワークづくりの一環（種まき）として位置づけています。

一日きこり実施結果 2012/4～2013/3

実施場所	実施日	参加者
鉾田市野友	2012. 4. 15	12
鉾田市野友	2012. 11. 17	4
牛久市遠山	2013. 1. 26	16
牛久市遠山	2013. 3. 30	15
計	4 回	47 名

● 地域循環型社会構築に関わる事業

○ 森と湖と人と農をつなげるビジネスモデル事業（2004 年度から継続）

1. 事業の概要

霞ヶ浦では外来種問題が深刻な状況にあります。外来魚や未利用魚を漁業者から買い上げて魚粉化し、肥料や家畜の餌として農業に使用してもらい、生産された農産物はブランド化して販売するという、環境保全を組み込んだ地域活性化の事業を2004年に提案しました。

外来魚や未利用魚を捕獲することで、栄養塩類（チッソ及びリン）を効率的に回収し、湖沿水質の浄化を図ります。魚粉を農業の栄養素として利用することで、流域外から持ち込まれる肥料等の削減を図ります。生産した農作物は霞ヶ浦流域のブランド（湖がよろこぶ野菜たち）として販売、消費者は野菜を手取ることで湖・地域への環境意識が啓発されます。この事業が自立して軌道に乗れば、在来魚の豊富な湖と生物多様性、人々と湖の絆を取り戻すことができると期待されます。

本事業は湖の再生につながる物質循環を実現するだけでなく、生物多様性保全を流通システム、ひいては社会システムに組み込んでいくモデルとなる事業です。本事業の継続によって、流域の活性化と湖の再生を一体のものとして進めていくことに寄与します。

2. 事業報告

今年度も環境パートナーシップ市民事業の事務局として業務を行いました。

2011 年 3 月 11 日に起きた東日本大震災後の原発事故による放射能汚染問題で外来魚の水揚げは実施できませんでした。そのため事故以前に水揚げした外来魚の魚粉を活用してこの事業を継続させています。

◆ 流域ブランド「湖がよろこぶ野菜たち」

今年度も JA やさとのキュウリやゴボウはカップちゃんシールをつけて出荷され、カスミ（株）の 21 店舗で販売。現在、JA やさとのぼかし肥にこの魚粉が配合されており、様々な作物の栽培に活用されています。

○ 「人も河童も喜ぶWIN-WIN型循環社会の構築」

キヤノンマーケティングジャパン株式会社協働事業（2009年度から4年目）

流域に広がる耕作放棄地の再生、外来魚の駆除・魚粉化による生物多様性保全・水質浄化、食用油となる資源作物の栽培、霞ヶ浦の自然再生・活性化事業によってできる材料を活用したせんべいづくりに福祉作業所に参画いただくなど、霞ヶ浦流域を活性化するための取り組みを進めてきました。畑での活動は3年目を終えた所で、今年度は3回のプログラムを実施し、124名の参加をいただきました。油糧作物としてヒマワリ栽培から菜の花栽培へと移行しました。プロジェクト運営費とプログラム開催費用などとして1,400,000円を支援いただきました。

第1回プログラム	菜の花花見・畑の周辺整備	2012年4月	33名
第2回プログラム	菜の花の収穫	6月	雨天中止
第3回プログラム	そばの収穫と小麦の種まき	11月	43名
第4回プログラム	ソバ打ちと麦踏	2013年2月	48名

kikyo 値 畑・池／牛久市島田 3,000 m²

	2010年	2011年	2012年
水辺 kikyo	96	132	144
トンボ kikyo	26	71	73

○ 日本テキサス・インスツルメンツ株式会社 美浦工場が取り組む
花畑プロジェクトへの協力 2年目

日本テキサス・インスツルメンツ美浦工場では近接地にある耕作放棄地を再生し、霞ヶ浦の外来魚でできた魚粉を活用し、花畑を作り、その成果を活用して地域貢献・環境保全を行っていくプロジェクトが2011年度に立ち上がりました。アサザ基金はその取り組みに賛同、協力しています。6月には社員ボランティアとヒマワリの種蒔きから始め、9月末には収穫し、搾油しました。今年度は6リットルほどのヒマワリ油が収穫でき、200mlのビンに詰め、美浦工場で配布先に配る予定です。

○ 「しょうゆで自然とつながろうプロジェクト」
日立化成工業株式会社協働事業（2012年度から新規）

霞ヶ浦の自然に育まれてきた土浦のしょうゆづくりは江戸時代に始まり今に続いています。霞ヶ浦と江戸を結ぶ舟運で栄えた土浦は、関東の醤油三大醸造地のひとつでした。筑波山周辺に広がる平地で大豆が栽培され、出来た醤油は霞ヶ浦、そして利根川を通り江戸に運ばれ、食卓を彩ったそうです。醤油づくりは霞ヶ浦流域を代表する伝統的産業です。この取り組みでは、霞ヶ浦の自然再生と活性化を進める醤油づくり、ブランドづくりに日立化成工業株式会社・柴沼醤油醸造株式会社・アサザ基金の協働で取り組みます。

耕作放棄地を再生し大豆づくり、外来魚の駆除・魚粉化による生物多様性保全・水質浄化、小中学校との協働によるしょうゆのブランド化授業の実施、福祉作業所による包装への協力等を目標に設定し、霞ヶ浦流域を活性化するための取り組みを進めています。この各段階に社員ボランティアが参加し、事業を進めています。

活動実績

2012年4月21日	耕作放棄地の再生とビオトープ作り	66名
6月23日	大豆の種まきと畑の周辺整備	89名
7月21日	アサザの植え付けと大豆畑の草取り	61名
11月4日	大豆収穫と畑の整備	90名
2013年3月24日	醤油の仕込み	68名
	参加者総計	374名

プロジェクト管理運営費など 5,575,000 円を支援いただきました。

kikyo 値 畑・池・森林／牛久市島田 6,000 m²
2012 年

水辺 kikyo	80
トンボ kikyo	54

● 複数の助成にかかわる事業など

○ 「アサザプロジェクト～環境を機に活性化する地域社会」

(三井物産環境基金助成事業 2009 年 10 月～2012 年 9 月)

(契約変更 → 2013 年 8 月末)

三井物産環境基金より 2008 年度に引き続き、アサザプロジェクトの活動の多くの部分について助成をいただいています。より多様な主体を巻き込んで、実社会に環境保全・再生機能を組み込んでいくこと、また、活動範囲を流域に限定することで“100 年後、トキが舞う霞ヶ浦”の実現をより確実なものとすることを目指します。

1. 事業報告

(1) “生きものと共生するまちづくり” 学習プログラムの流域展開に関して

牛久で行ったまちづくり学習をモデルに、流域へ応用していくこととして助成をいただいています。実施内容については前出のとおりです。

(2) 地産地消による地場産業の活性化と循環型社会構築に関して

湖が喜ぶ野菜たち、広がれあさぎの夢など環境保全を機にブランド化を進める取り組みについてご支援いただいています。実施内容については他の項目で報告しているとおりです。

(3) “天然ウナギ” 復活に向けた政策提言と流域内の合意形成に関して

逆水門柔軟運用の実現に向けた市民運動の実施と政策提言を作るための調査費用に活用しました。さらに放射能対策の活動についても支援いただきました。

2011 年度に振込いただいた助成金 6,871,590 円の内、2,996,208 円を上記の活動経費に充てました。当初計画していた外来魚の水揚げが実施できなかった分の 1,000,000 円を 2013 年度に繰り越しました。この助成金を活用し、放射能汚染された学校ビオトープ池の再造成を行います。

○ 原宿表参道・森の恵み・森の風プロジェクト (2009 年度より継続)

原宿・表参道という大都市の中に、明治神宮の森から広がる自然の恵みを活かしたまちづくりを目指し、脱温暖化や生物多様性保全も視野にいれた取り組みです。

神宮前小学校の夏季特別講座において、表参道界隈や明治神宮、代々木公園の野外観察を行いました。また、田中千代ファッションカレッジと協働し「100 年後、原宿に生きる生きものたち」というテーマで、出前授業を実施しました。100 年前の原宿の姿をイメージするために鹿嶋市山之上の谷津田での草取り体験や、エコロジーがテーマのファッションショー、山之上の地域の方を呼んで田中千代ファッションカレッジ内での餅つきなど行い、都会の若者と北浦の水源地保全に取り組む鹿島の地域の方との交流に広がりました。

事業報告

(1) 神宮前小学校の子ども達と野外観察

- ・ 2012 年 7 月 31 日 参加者 15 名
- ・ 2012 年 8 月 27 日 参加者 13 名

(2) 田中千代ファッションカレッジでの出前授業、鹿嶋市山之上での草取り作業体験、山之上の方を招待し田中千代ファッションカレッジでの餅つき

- ・ 2012 年 4 月 18 日 出前授業 参加者 60 名
- ・ 2012 年 7 月 24 日 草取り作業体験 参加者 30 名
- ・ 2012 年 11 月 22 日 餅つき 参加者 130 名 (内山之上の方 13 名)

○ セブン-イレブンみどりの基金 「継続プロジェクト助成」

(助成期間：2012年3月1日～2015年2月)

セブン-イレブンみどりの基金から、組織運営費（人件費一人分）と霞ヶ浦流域の環境学習活動費用などに、年間3,000,000円の助成をいただきました。アサザプロジェクトの展開を図る上で基盤となる貴重な財源となりました。

○ 東京電力株式会社社員受け入れ

平成16年度から東京電力株式会社社会貢献の一環として、派遣社員1名を受け入れました。

(主要内容)

派遣期間	平成16年7月1日から平成25年3月31日
勤務内容	・水源地保全の酒米づくり作業
	・アサザなどの植生作業補助
	・雑木林の手入れ作業補助
	・その他当法人の事業に付帯する一切の業務補助

○ 研修生の受け入れ

・「損保ジャパンCSOラーニング制度」から2名のインターン生を受け入れました。（7月から2月の8ヶ月間）アサザプロジェクト全般について体験するとともに、水源地保全米を使用した製品の商品開発や販路拡大のための企画づくり、牛久南中学校での環境学習の活動支援、ラーニング生を巻き込んだイベントの企画・調整に取り組みました。

・職場体験の一環で牛久南中2年生4名を2日間受け入れました。牛久市内小学校の授業や谷津田の整備、谷津田の生物調査などに取り組みました。

・牛久南中1年生によって組織された自主サークルアサザクラブの生徒8名を受け入れました。

● その他の事業

○ アサザプロジェクトオリジナル地酒「広がれあさざの夢」の流域ブランド化をすすめました！

水源地保全活動として再生した谷津田で栽培した米を原料に、アサザプロジェクトのオリジナル酒「広がれあさざの夢」が2つの酒蔵店（白菊酒造<石岡>、愛友酒造<潮来>）で製造され茨城県内のスーパーカスミやジャスコ土浦店、茨城県のアンテナショップ、銀座にある黄門マルシェでも期間限定で販売されました。引き続き霞ヶ浦ブランドとしての定着を目指していきます。

○ 湖がよろこぶ煎餅プロジェクト

霞ヶ浦再生ブランドの煎餅を、小美玉市の大形屋商店さんと協働開発を始めました。水源地の再生、地域活性化、水産資源の保全を目的としています。煎餅の原料には密漁をしない漁師から仕入れた「ざざえび」と再生した谷津田でつくった無農薬栽培米の米粉を使用しました。せんべいのブランド化やマーケティングなどは牛久市内の中学生が行っています。霞ヶ浦の再生、ブランド化を進めていく事業展開の中で、より多くの方と協働する場が生まれていく事業です。企業との協働も進めながら、より一層のブランド化を図ります。

○ トンボのスケッチ会

2012年8月2日に、牛久市立神谷小学校に隣接するカワセミの郷（児童の提案によって再生が実現した霞ヶ浦水源地）にて、恒例のトンボスケッチ会を行いました。参加者は18名。茨城トンボ様から飲み物をご提供いただきました。

○ 会報の発行

会報「あさざだより」を2012年8月、2012年12月の2回発行し、会員の皆様や関係団体、諸

機関などに配布しました。(発行部数/毎号 約 1200 部)

○ ホームページ運営

各イベントの案内や最新情報を、会員や参加者向けに発信しました。また、2012年2月より、特定非営利活動法人サービスグラントの支援を受け、スキルを持ったボランティアチームによるホームページのリニューアルプロジェクトを開始しました。

○ 講演、視察研修の受け入れ

全国各地で開催されるシンポジウムや講演会、大学の講義などに代表理事の飯島が講演者やパネラー、講師として23回出席し、アサザプロジェクトの活動紹介に努めました。

視察では、一橋大学大学院留学生を対象とした霞ヶ浦体験プログラムや、トラゾウ基金の紹介でインドの知事をお招きするなど、9件103名を受け入れました。

○ 霞ヶ浦ゆめ基金へのご寄付をありがとうございました。

2012年度は総額535,135円のご寄付をいただきました。これらは、霞ヶ浦流域の環境学習に活用させていただきました。今後ともご支援、ご協力を宜しくお願い致します。

○ 自主事業の財源確保

霞ヶ浦の放射能汚染問題や常陸川水門の柔軟運用の実現、ラムサール条約登録など、アサザ基金の自主的な活動をすすめていくためには活動資金が必要です。昨年2012年12月に弊基金が認定NPO法人に認定されたことを契機に自主財源の確保に努めてまいります。

賛助会員、協力会員の会費に対しても寄附扱いで領収証を発行致します。今後ともご支援ご協力を宜しくお願い申し上げます。

＜認定 NPO 法人＞に寄附しますと、寄附者の寄附金の約 50%を税額控除できます。所得税に税額控除方式（所得にかかわらず原則的に減税額が同じ）が導入されましたので、控除割合は寄附金の 40%（住民税 10%と合わせて最大 50%）となり⇒（寄附金額－2000 円）×40%を所得税額から差し引くことができます。

例えば 所得金額に関係なく

*1 万円の寄付で 3200 円減税！ *10 万円の寄付で 39200 円減税！